

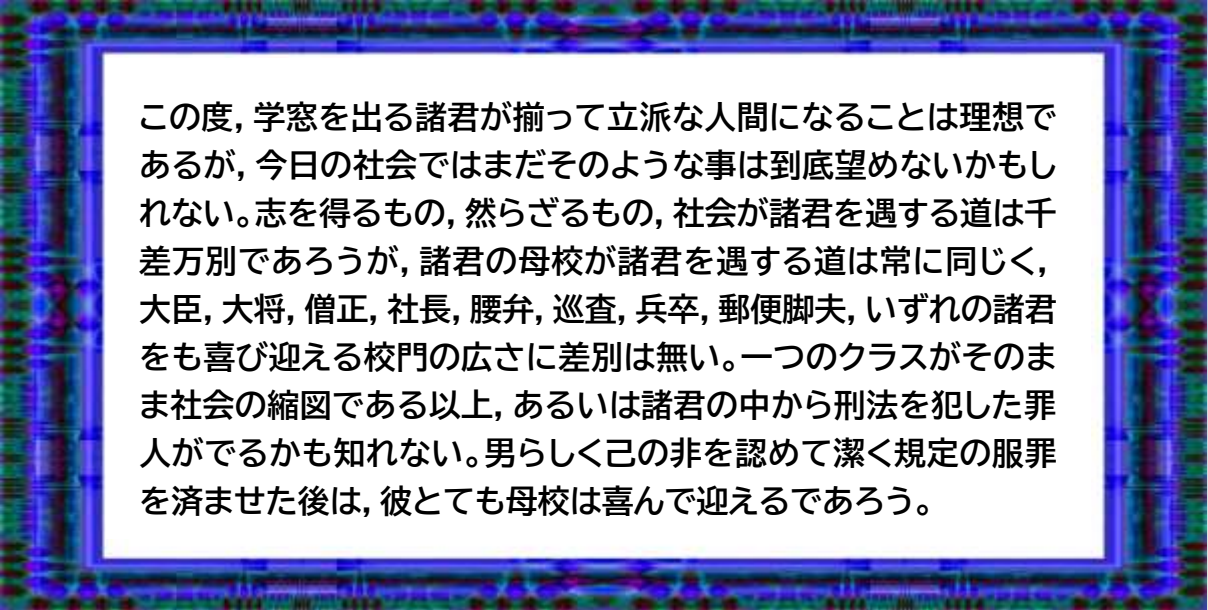
Principal Correspondence

卒業おめでとう。今年もこの言葉を贈ります

卒業に当たり、毎年同じような言葉を、卒業生に贈ります。100年近く前の英国パブリック・スクール校長による卒業に当たっての言葉です(「自由と規律 –イギリスの学校生活–」岩波新書、池田潔著より)。

日本では不吉なことを言うのを忌み嫌う伝統があり、例えば結婚式で「終わる、閉じる」などとは言わないのですが、西欧圏では結婚式で牧師が必ず「汝、健やかなる時も、病める時も、ともに手を携え助け合い…」とはっきりと危機を口にして覚悟をさせる伝統になっています。

(何でも英国が良いわけではありませんが)この 100 年前の言葉にはそうした英国の精神がはっきりと示されており、日本ではおそらくこういう祝辞はしないでしょうが、私は敢えて当校の精神と合致するゆえ卒業生に贈りたいと思います。当時女兒は入学できなかった時代なので、男児向けに贈られた言葉ですからそれを含んで読んでいただきたいのですが、これをもってマンスリー・リリーの 1 年の締めくくりの言葉と致します。



この度、学窓を出る諸君が揃って立派な人間になることは理想であるが、今日の社会ではまだそのような事は到底望めないかもしれない。志を得るもの、然らざるもの、社会が諸君を遇する道は千差万別であろうが、諸君の母校が諸君を遇する道は常に同じく、大臣、大将、僧正、社長、腰弁、巡查、兵卒、郵便脚夫、いずれの諸君をも喜び迎える校門の広さに差別は無い。一つのクラスがそのまま社会の縮図である以上、あるいは諸君の中から刑法を犯した罪人がでるかも知れない。男らしく己の非を認めて潔く規定の服罪を済ませた後は、彼とても母校は喜んで迎えるであろう。

自立して、創造性を持ったリーダーに

みなさんは学校生活でリリーベール綱領の基礎をしっかりと身に付けられました。これからもチャンスを見つけてその精神を思い出し、立派なリーダーを目指してください。ご両親や先生をはじめとする多くの人にいただいた「御恩」や「愛情」は、大きくなったら、今度は諸君が社会にお返ししてください。

風よ、光よ、空翔る雲よ、この子らに祝福あれ…

ご卒業おめでとうございます

Principal Correspondence

リリーの学童クラブの特徴

リリーの学童クラブは、リリーバール小学校・リリー幼稚園・リリーの森幼稚園・リリー&ヴィクトリアナーサリー・キンダーワールドナーサリー、リリー&ヤマネスクエアの6教室。数百人が通っています。リリーの学童クラブとはどのようなところでしょうか。

まず学童とは

学年を超えて子どもたちが集まる類まれなる場所です。縦割りの社会の中で高学年はリーダーシップ性を養い、必要とされる存在であるという意識を持ち、低学年はそんな高学年の姿に憧れて刺激を受ける場所です。

次にリリーの学童では、宿題時間のメリハリや、生活習慣を徹底することを全力でサポートしています。

リリーの学童で共通しているのは

キャンプ(デイキャンプ含む)、社会見学学習(長期休みに博物館・ディズニーランド・水族館など)や社会体験(笠間焼絵付け体験・映画館での映画鑑賞など)、それに加えて、学童対抗交流スポーツ大会、偉人伝読書感想文コンテスト、アートでは年賀状コンテストなど、学校ではできない豊富な体験活動を、忙しいご両親に代わって行なっていることです。

また、学童職員だけではなく、園や学校の先生方が常に居り、学童での成長を見守っていて、いつも気にかけてくれていることです。それは子どもたちにとっても安心できる居場所となっていることでしょう。

園や学校全体であたたく指導をし、新しい可能性を探し発見ができる体験を提供する。リリーの「育脳学童」とはそういった意味を持っているのです。

いよいよお別れする上級生の皆さんは、それぞれ次のステージへ上ります。

リリー学園のモットーは「いつもあたたかく、いつもあたらしく」です。

皆さんにこの言葉を贈り、1年間の締めとさせていただきます。

